

第10回 福岡市立こども病院の移転に関する小児2次医療連絡協議会

議事要旨

- 日 時 平成25年1月28日(月) 13時30分～15時00分
- 場 所 アクロス福岡 6階 608号会議室
- 出席委員 独立行政法人国立病院機構九州医療センター院長 村中委員
国家公務員共済組合連合会浜の町病院院長 安井委員
地方独立行政法人福岡市立病院機構
福岡市立こども病院・感染症センター院長 福重委員
福岡市医師会会長 江頭委員
福岡大学病院院長 山下委員
福岡地区小児科医会会長 進藤委員
福岡市保健福祉局理事 恒吉委員
- [オブザーバー]
福岡市医師会 元山理事

議題1 こども病院移転後の西部地区の小児2次医療提供体制について

- 事務局から「資料 これまでの議論について」に沿って説明を行った。

〈議論の中で出た主な意見〉

- ・ 西部地域における小児2次医療提供体制の現状についてまとめると、
 - ① 多くの病院から現状の体制でまだ患者の受入余力があると回答いただいている、
 - ② 外環状道路など交通網の整備により、南区にある病院でも西部地域からの患者の受入が増えている、
 - ③ こども病院移転によって患者受入が増えると考えられる病院における小児科の病床数や患者数を機械的に集計すると、病床が $126 + \alpha$ あり、稼働率は約8割程度である、
 - ④ 委員である浜の町病院、福岡大学病院がより一層、2次医療患者を受け入れると表明された、ということになる。

- ・九州医療センターの小児科は周産期医療中心。一般小児については地域においてどうしても受け入れてくれないと困るという状況であれば、引き受ける覚悟はある。しかし、一般小児の受入については、新たに一般小児を診るチームを作らなければならない、相当現実的に難しい話である。一方、小児外科については、相当余力があるので、こども病院移転後、患者を十分受け入れていく。
- ・福岡大学病院は、今、救急病院の認定を申し出ているところであり、今後、救急医療にも力を入れていきたい。
- ・西部地域における小児2次医療提供体制の課題として、
 - ① 多くの病院では小児科医が少ないため、夜間・休日といった時間外の受入体制が十分でなく、また医師の負担が大きいこと、
 - ② 勤務小児科医は全国的に不足しており、増員するのは難しい状況にあること、
 - ③ 各病院の役割分担を明確にした上で、より一層の連携強化等の取り組みが必要であること、
 - ④ 患者や家族、開業医の中には、こども病院移転による影響を心配する方がいること
 が挙げられる。
- ・こども病院移転後の小児2次医療提供体制については、各病院の役割分担をより一層明確にし、医療連携システムの構築・強化を図っていくことにより対応していく。
- ・一方、多くの病院小児科は医師が少なく、このままでは医師が疲弊してしまい、また、こども病院移転に不安を感じる方に何らかの対応をする必要があるので、現こども病院の立地を踏まえ、利便性の高い都心部に拠点となる病院小児科を設けることが必要ではないか。
- ・小児科医会の理事会で、どういった対策が望ましいか協議したところ、
 - ① 第1案としてこども病院跡地に、こども病院の代わりに小児2次医療を行う病院を作ってほしい。第2案として既存の医療機関、具体的には浜の町病院の小児科を時間外の2次救急にも対応できるよう充実させてほしい、
 - ② 今の浜の町病院の小児科医の数では、時間外の小児2次救急を行うのは無理。浜の町病院で小児2次救急ができるよう、市や市医師会から大学医局に医師派遣をお願いしてほしい、
 - ③ また、その決定理由を小児科医会の会員に教えてほしい、
 - ④ 他に対策が無ければ、現こども病院から少し遠方にあるといえ、福岡大学病院に患者の受入を当然お願いすることになると思う、
 といった意見になった。

- ・ 小児科医会では、現在、会員に対し、アンケートを行っているところである。多くの会員は、こども病院が移転した後、既存の医療機関で対応していくのではないかと思うが、やはり、こども病院移転の影響は 0 ではないので、跡地にこども病院と似たような機能の施設ができることを望む会員はいると思う。
- ・ こども病院移転の影響を考慮すべき 2 次医療患者数は 12～15 人/日であり、既存病院の受入体制からみると、十分にカバーできると思う。病院にはいつでも患者を受け入れてほしいという開業医の気持ちは強く分かるが、だからといって、こども病院跡地に代替医療施設をつくるというのは、お金がかかるし、更に小児科医を分散させてしまうことになる。
- ・ こども病院跡地に新病院を建設する場合、病院移転から新病院ができるまでに何年もかかり、その間、医療の空白期間が生じる。一方、患者や家族に対して切れ目なく医療を提供する必要があるので、跡地での新病院建設は、現実的な対応ではないと思う。
- ・ 新こども病院のオープンは平成 26 年 11 月ごろを予定しているが、そのオープンぎりぎりまで現こども病院で診療を続けなければいけない。
- ・ こども病院跡地に関するスケジュールが未定であるが、一般的に考えると、こども病院跡地に新病院をつくる場合、現建物の解体、地元との協議を終えた上で新病院の建築となるので、病院移転後、少なくとも 2 年ないし 3 年はかかると思われる。
- ・ 現こども病院跡地は地方独立法人福岡市立病院機構が所有する土地だが、その処分にあたっては、市議会の了承が必要である。
- ・ 時間外の小児 2 次救急医療に対応するためには、小児科医だけではなく、検査技師、放射線技師などもそろえなければいけないが、今は、そういった医療者をそろえるのが難しくなりつつある。ただし、病院の規模が一定レベル以上であれば、既に検査技師、放射線技師などがそろっており、時間外対応ができる体制となっている。
- ・ 新しい浜の町病院は今年の 10 月にオープンする。浜の町病院としては、小児科の体制を強化し、より一層 2 次医療患者を受け入れていく気持ちはあるが、あまり安請け合いはできない。病床については、科で譲り合うなど、フレキシブルに運用しているので、時期によって変動する医療ニーズに対応できると思うが、小児科医については、数に限りがあるので、確保が難しい。
- ・ 拠点化を図っていくということであれば、小児科医の確保について、市も市医師会と連携し、大学医局へ働きかけていく。
- ・ 協議会として、大学医局に対し、拠点化を図っていくため、小児科を派遣してほしいとお願いすれば、大学医局も応じやすいのではないかと。

- ・ 西区、糸島地区の小児科医で話し合いをしたところ、
 - ① こども病院跡地に病院ができるのは、現実的にどうも難しいだろう、
 - ② 西区、糸島からの距離的な観点からいうと、浜の町病院までなら妥当ではないか、
 - ③ 小児科というのは、夏は患者が少なく、冬は多い。浜の町病院には冬場の忙しいときに患者を受け入れてもらえるのかどうか心配である、
 - ④ 夏場が赤字になるので、それでも永続的にしていただけるかどうか、非常に不安である。市から財政的な支援が必要なのではないか、といった意見になった。
- ・ 浜の町病院の小児科が機能を大きく拡充したとしても、何でも屋さんで受け入れてくれと言っては無理がある。福岡大学病院は新生児を対象としたベッドを含めると、小児に関連するベッドは 108 床あり、小児患者を受け入れることはできる。
- ・ 小児医療情報ネットワークシステムを充実させることができれば、開業医が患者の受入先となる病院を探す負担を減らすことにつながる。
- ・ 不安に感じている患者、家族、開業医に対して、大丈夫ですと言うだけでは、納得はなかなか得られないと思う。納得いただくためには、小児 2 次医療提供体制の確保について、各病院の役割分担を明確にし、各々がその役割をしっかり果たしていくといったことを明記しないといけない。
- ・ 都心部の拠点性については、委員の皆さんの同意を得たと思う。次回の会議では、もう一度都心部の拠点性について議論し、とりまとめをしたい。